



2001年10月23日

ドイツVWAG発「D1」プレスリリース翻訳

フォルクスワーゲンD1

ニューマチック サスペンションを標準装備する独創的なラグジュアリー サルーン

進歩的なデザイン、比類なきダイナミズム、卓越した審美性の融合

ウォルフスブルク発

フォルクスワーゲンは、2002年春より新しいラグジュアリー サルーンをモデル ラインナップに加え、新たなマーケットの開拓を始めます。

この「D1」と呼ばれる魅力的なサルーンは、フォルクスワーゲン一流のクリアで精密なデザイントレンドを踏襲しています。突き進む矢を彷彿させるウェッジの効いたボンネット、低くダイナミックにクローム モールが施されたフロントグリル、印象的なヘッドライトなどのディテールによって表現されたフロント デザインは、自信に満ちあふれています。同様にリアのデザインにも、非常にパワフルな手法が用いられています。ラグジュアリー サルーン「D1」は、リア コンビネーションランプに内蔵されたLEDユニットにより、夜間でもすぐに、その存在がわかるように演出されています。

フロントからリアへと流れるボディ ラインのキーワードは、「エレガンス&ハーモニー」です。

シックスライト ウィンドが、印象的かつ個性的に際立ち、サイドビューの大きな特徴となっています。

またテクノロジー コンセプトが最上級を目指すように、ボディ サイズもラグジュアリー サルーンの名にふさわしい、全長5,055mm、全幅1,903mmと堂々としたサイズとなっています。

エンジン

ハイパフォーマンスなガソリン及び、ディーゼル エンジンの双方に共通するポイントとして、豊かでフラットなトルク特性が挙げられます。なお発表時には、次の2種類のエンジンが用意される予定です。

- 3.2リッター V6 最高出力177kW/241bhp、最大トルク 315Nm、
- 6.0リッター W12 最高出力309kW/420bhp、最大トルク 550Nm、

最終的に「D1」には、合計5種類のエンジンが搭載される予定ですが、第3のパワーユニットとしてデビューするのは、乗用車用ディーゼル エンジンとしては、最も洗練された史上最強を誇る5.0リッター、V10 TDIエンジンとなります。このエンジンは、230kW(313bhp)の最高出力と750Nmという強力な最大トルクを発揮します。さらに、このV10 TDIと同じくして、全く新しい設計となる6速オートマチック ギアボックスがデビューします。

ランニング ギア(サスペンション)およびドライブトレイン

この全く新しいラグジュアリー サルーン全モデルには、先進の4システム ニューマチック サスペンションと、電子制御無段階調節式ダンパーが装着されます。また、ドライブトレインは、4MOTION(四輪駆動システム)が採用されます。このシステムは、当初W12とV10 TDI仕様にも標準装備されますが、追って、その他のバリエーションにもオプション設定する予定です。

ボディ

スチール製のボディ パーツには、すべて亜鉛メッキが施されています。ドア、トランクリッド、ボンネットはアルミニウム製です。特にドアは、レーザー溶接ダイキャスト アルミニウムを使用することによって、これまでにない剛性レベルを持つ、まさに最新テクノロジーの産物と言えるものになります。

インテリア

「D1」は、4コーナー クライマトロニックという、まったく新しいコンセプトのエアコンディショナーを採用しています。このシステムは、従来のエアコンディショナーのように、冷気や暖気を直接吹き出すことなく、自動的に開閉するベントを通じて、キャビンに間接的に冷気、暖気を供給します。

インテリア デザインの特徴は、非常にユニークなハンドメイド感覚にあります。フォルクスワーゲンAGのデザイン統括責任者、ハルトムート ワークスは、「D1」のインテリアについて次のように語っています。「厳選された素材、織り

の具合、質感、そしてアクセントのあるデザインに至るすべての点で、進歩的感覚と高級感を両立させる、全く新しい手法を見出すことに成功しました」。

しかしながら、いくら上質で素晴らしい素材を用いたとしても、スイッチやコントロール ノブが雑然と配置されているのは、ラグジュアリーとは言えません。そこで、メーターや各種コントロール スイッチをシンプルかつスッキリとレイアウトし、さらに視認性に優れ、直感的な操作にも対応できるようにしています。このように、真にユーザーのためになるテクノロジーを実現することこそ、フォルクスワーゲンの目標といえるのです。

この結果、16:9の縦横比を持つセンターコンソール内蔵型7インチ カラー ディスプレーを含む、標準装備の“インフォテインメント システム”の機能性は、使いやすさを第一条件として考え抜かれています。

グレードによって、6連装CDチェンジャー、コンサートホール サウンド システム、ナビゲーション システム、TV、オンボード コンピュータ、自動車電話、エア コンディショナーなどが標準装備されます。

インテリアにはラグジュアリーな質感と雰囲気は漂うだけでなく、フロントおよびリア シート周辺のサイズ、インテリア スペースの新基準を打ち立てています。

新設計のヘッドライト ウォッシャー システムを持つキセノン ヘッドライトや、リア コンビネーションランプ、ドアミラー内蔵ライトなどによって、車両周辺部を明るく照らし出す“カミング ホーム機能”や、フロント エアバッグ、フロント及びリアのサイド エアバッグ、そして、カーテン エアバッグなど、最高水準のパッシブ セーフティ機能も、すべて標準装備に盛り込まれています。

フォルクスワーゲン期待のニュー ラグジュアリー モデル プロジェクト「D1」の正式名称は、今年末ごろに竣工予定の、ドレスデンにある「グラス ファクトリー(ガラス張りの工場)」で行われる竣工記念式典において発表される予定です。

なお、フォルクスワーゲンは、この新しい工場に3億6,500万ドイツマルクを投じる計画です。

生産開始後は、800名を越える従業員によって行程が管理、運営され、1日あたりの生産台数は、最大で100台を予定しています。

以上